



住まいの耐震化を進めましょう！

住まいの耐震化は大丈夫？

阪神・淡路大震災では、建物の下敷きになって亡くなられた方が約8割でした。奈良県でも、大きな被害をもたらす地震がいつ発生してもおかしくありません。(今後30年以内に震度6弱以上の地震に見舞われる可能性は奈良市で約50%となっています。*)

※政府の地震調査委員会が平成26年12月19日に公表した「全国地震動予測地図」による数値

地震に備える3ステップ

ステップ1

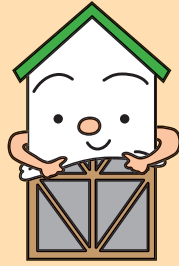
できることからする



身を守る取り組みとしてまずは家具を固定しましょう。

ステップ2

自分の住まいを知る



住まいの安全を知るために耐震診断を受けましょう。

ステップ3

住まいを丈夫にする



耐震性が無い住まいには耐震改修を行いましょう。

県では、地震被害による建築物の倒壊を未然に防ぐため、次の事業に取り組んでいます。

〔耐震診断〕

耐震診断員を派遣し、既存木造住宅の耐震診断や耐震改修のアドバイスをを行っています。

・ほとんどの市町村で無料
・申し込み先各市町村耐震担当窓口

〔耐震改修〕

多くの市町村で、既存木造住宅の耐震改修工事を行う際に、工事費の一部を補助しています。

・工事費の一部を補助(市町村により補助率等が異なります)
・申し込み先各市町村耐震担当窓口

奈良県 建築物の耐震 検索



◆天平の苦しみを癒やしたマレーシアの薬

東大寺の大仏さまを造立したことで知られる聖武天皇。その天皇を后として支え続けたのが、光明皇后です。光明皇后は、体が丈夫でなかった夫・聖武天皇のために、唐・新羅・東南アジア諸国から数々の薬草を集めたといわれています。シルクロードの終点として、あらゆる文物が世界各地からもたらされた国際都市・平城京ならではの薬草コレクションでした。



▲「種々葉帳」前部(朝比奈泰彦編「正倉院薬物」植物文献刊行会1955より)

しかし、756年聖武天皇はついに崩御されました。光明皇后は、「種々葉帳」と呼ばれる薬草の目録を、天皇遺愛の品々に添えて東大寺の大仏さまに献納し、夫を偲んだといわれます。この「種々葉帳」には、約60種類の薬草名や使用法などが詳しく記載されており、海外産の薬草も多く含まれていました。1948年の東京大学による調査で、「檳榔子」という薬草がマレーシア産の高木ピンロウジユ(マレー語では「ペナン」)の種であることが確認されました。紀元前から、興奮性の麻酔作用を持つこの種は、日常のぜいたく品や贈り物、宗教儀式の道具としてインドからオセアニア各地まで広く用いられてきたものです。

近年の調査では、1250年の時を超え、今も薬としての効果を有することが明らかにになりました。

「種々葉帳」には「病に苦しむ人々のために薬草を用いるように」との光明皇后の願いがこめられていました。はるか天平の昔に、マレーシアから海を渡った薬草が、天平の人々の苦しみを救っていたことに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



奈良県観光プロモーション課 0742-27-8553 FAX 0742-27-3510